

大学番号：私245

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

認可

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人奈良学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局

職名・氏名 事務局長 仁後 公幸

電話番号 0745-73-7800

（夜間） 0745-73-7820

F A X 0745-72-0822

e-mail ngu-hk-kyoumu.jimu@naragakuen-u.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

＜リハビリテーション学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人奈良学園

(2) 大学名

奈良学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒631-8524

奈良県奈良市中登美ヶ丘3丁目15-1

(奈良県生駒郡三郷町立野北3丁目12-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イセ トシフミ) 伊瀬 敏史 平成30年5月		
学長	(ツジ キイチロウ) 辻 毅一郎 平成29年4月		
学部長	(モリモト トモコ) 守本 とも子 平成26年4月		
学科長		(ツジシタ モリヒロ) 辻下 守弘 平成31年4月	平成31年4月1日学科長職 創設(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士 (理学療法学) 作業療法専攻 学士 (作業療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	年	人	年次人	人	
		4	80	—	320	
		4	40	—	160	
		4	40	—	160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 〉

区分	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 80 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	人 (—) [—]	0.63 倍	— 倍	
志願者数	173 (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]			
受験者数	167 (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]			
合格者数	78 (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]			
B 入学者数	51 (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	0.63										

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 〉

区分	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-	1.07 倍	— 倍	
志願者数	135 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
受験者数	129 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
合格者数	58 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
B 入学者数	43 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
入学定員超過率 B/A	1.07										

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 〉

区分	令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-	0.20 倍	— 倍	
志願者数	38 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
受験者数	38 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
合格者数	20 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
B 入学者数	8 (-) [-]	-	-	-	-	-	-	-			
入学定員超過率 B/A	0.2										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ () 内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、() 書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ **転入学生は記入しないでください。**
 ・ [-]内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。**なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) 一③ 調査対象学部等の在学者の状況

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 〉

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	51 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4 年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			51 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 〉

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	43 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4 年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			43 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 〉

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	8 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4 年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			8 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」**を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 〉

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	51 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〉

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	43 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 〉

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	8 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 〉

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{51} = \boxed{0} \%$$

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〉

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 〉

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〉

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	英会話Ⅰ	1前	1								1
	英会話Ⅱ	1後	1								1
	中国語基礎Ⅰ	1前		1							1
	中国語基礎Ⅱ	1後		1							1
	中国語会話	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅰ	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅱ	1後		1							1
	スペイン語会話	1前		1							1
	文学	1後		2							1
	哲学	1前		2							1
	倫理学	1前		2							1
	心理学	1前	2								1
	行動の科学	1後		2							1
	文化人類学	1後		2							1
	音楽の世界	1後		2							1
	社会学	1後		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	歴史学	1後		2							1
	地理学	1後		2							1
	数学の世界	1前		2							1
	自然科学の基礎	1後		2							1
	環境化学の基礎	1後		2							1
	健康スポーツ(理論)	1前	1								1
	健康スポーツ(実技)	1後		1							1
	スポーツ実技Ⅰ	1前		1							1
	スポーツ実技Ⅱ	1後		1							1
	共生と社会	1後		2							1
	人権論	1前		2							1
	ボランティア活動	1前	2								1
	生活と環境	1前		2							1
	奈良学	1前		2							1
	異文化コミュニケーション	1後		2							1
	国際事情	1後	2								1
	情報機器の操作	1前	2								1
	情報倫理とセキュリティ	1前		2							1
	データの世界	1前		2							1
	情報と分析	1後		2							1
	CGの基礎と演習	1後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1前		1							1
	キャリアデザインⅡ	1後		1							1
	キャリアディベロップメントⅠ	2前		1							1
	キャリアディベロップメントⅡ	2後		1							1
	基礎ゼミⅠ	1前	1								1
	基礎ゼミⅡ	1後	1			6	2	5	5		1
小計(46科目)	-	-	15	57	0	6	2	5	5	0	28

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	英会話Ⅰ	1前	1								1
	英会話Ⅱ	1後	1								1
	中国語基礎Ⅰ	1前		1							1
	中国語基礎Ⅱ	1後		1							1
	中国語会話	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅰ	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅱ	1後		1							1
	スペイン語会話	1前		1							1
	文学	1後		2							1
	哲学(未開講)	1前		2							1
	倫理学	1前		2							1
	心理学	1前	2								1
	行動の科学	1後		2							1
	文化人類学	1後		2							1
	音楽の世界	1後		2							1
	社会学	1後		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	歴史学	1後		2							1
	地理学	1後		2							1
	数学の世界	1前		2							1
	自然科学の基礎	1後		2							1
	環境化学の基礎	1後		2							1
	健康スポーツ(理論)	1前	1								1
	健康スポーツ(実技)	1後		1							1
	スポーツ実技Ⅰ	1前		1							1
	スポーツ実技Ⅱ	1後		1							1
	共生と社会	1後		2							1
	人権論	1前		2							1
	ボランティア活動	1前	2								1
	生活と環境	1前		2							1
	奈良学	1前		2							1
	異文化コミュニケーション	1後		2							1
	国際事情	1後	2								1
	情報機器の操作	1前	2								1
	情報倫理とセキュリティ	1前		2							1
	データの世界	1前		2							1
	情報と分析	1後		2							1
	CGの基礎と演習	1後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1前		1							1
	キャリアデザインⅡ	1後		1							1
	キャリアディベロップメントⅠ	2前		1							1
	キャリアディベロップメントⅡ	2後		1							1
	基礎ゼミⅠ	1前	1								1
	基礎ゼミⅡ	1後	1			6	2	5	5		1
小計(46科目)	-	-	15	57	0	6	2	5	5	0	28

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ(総論・組織学)	1前	1									2
	人体構造学Ⅱ(内臓・生殖器)	1後	1									2
	人体構造学Ⅲ(神経・運動器)	1後	1			1		2				
	人体構造実習	2前	2			1		2				
	人体機能学Ⅰ(植物性機能)	1前	1			1						
	人体機能学Ⅱ(動物性機能)	1後	1				1	2				
	人体生理機能実習	2前	2				1	2				
	人間発達学	1前	1									2
	運動学入門	1前	1					1				
	運動学Ⅰ(総論)	1後	1			1		2				
	運動学Ⅱ(各論)	2前	1			1	1					
	運動学演習	2前	1					1	2			
小計(12科目)	-	-	14	0	0	4	1	4	2	0	0	6
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	1後	1			1						
	リハビリテーション医学	1前	1								1	
	痛み学概論	1後	1			1			1			1
	整形外科学Ⅰ(総論)	2前	1									1
	整形外科学Ⅱ(各論)	2後	1									1
	内部障害学Ⅰ(総論)	2前	1			2						
	内部障害学Ⅱ(各論)	2後	1			2						
	神経内科学	2前	1			1						
	心身医学概論	2後	1								1	
	臨床心理	2後	1								1	
	スポーツ医学	1後	1		1				1			1
	薬理学概論	2後	1		1							1
	救命救急学概論	3後	1				1					
小計(13科目)	-	-	10	3	0	3	1	0	2	0	0	7
保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	1			1						
	先端リハビリテーション論	4後	1									3
	チーム医療論	1後	1			1						
	チーム医療論演習	4後	1			1	1	3	2			
	国際リハビリテーション論	2前	1									2
小計(5科目)	-	-	5	0	0	1	1	3	2	0	0	5
両専攻共通専門科目	医療リスクマネジメント	3後	1			1						
	職場管理論	4後	1			1		1				
	疼痛リハビリテーション学	3前		1		1			1			1
	リハビリテーション行動科学	3後		1		1						1
	ウイメンズヘルスケア	3前		1								1
	認知発達障害ケア	3後		1								2
小計(6科目)	-	-	2	4	0	3	0	1	1	0	0	5
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1			1						
	臨床運動学	2後	1				2					
	理学療法研究法	3前	1				1	1				
	客観的臨床能力演習(理学療法)	3後	2			4	2	4	3			
	理学療法卒業研究	4後	2			3	2	4	3			
	小計(5科目)	-	-	7	0	0	4	2	4	3	0	0
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	1				1	1				
	運動器障害評価学	2後	1			1		1				1
	神経障害評価学	2前	1				1					
	内部障害評価学	2後	1			1	1					
	理学療法計画論	3後	2				1		1			1
小計(5科目)	-	-	6	0	0	3	2	2	1	0	0	1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ(総論・組織学)	1前	1									2
	人体構造学Ⅱ(内臓・生殖器)	1後	1									2
	人体構造学Ⅲ(神経・運動器)	1後	1					1		2		
	人体構造実習	2前	2					1		2		
	人体機能学Ⅰ(植物性機能)	1前	1					1				
	人体機能学Ⅱ(動物性機能)	1後	1						1	2		
	人体生理機能実習	2前	2						1	2		
	人間発達学	1前	1									2
	運動学入門	1前	1							1		
	運動学Ⅰ(総論)	1後	1					1		2		
	運動学Ⅱ(各論)	2前	1					1	1		1	2
	運動学演習	2前	1								1	2
小計(12科目)	-	-	14	0	0	4	1	4	2	0	0	6
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	1後	1						1			
	リハビリテーション医学	1前	1									1
	痛み学概論	1後	1					1			1	
	整形外科学Ⅰ(総論)	2前	1									1
	整形外科学Ⅱ(各論)	2後	1									1
	内部障害学Ⅰ(総論)	2前	1					2				
	内部障害学Ⅱ(各論)	2後	1					2				
	神経内科学	2前	1					1				
	心身医学概論	2後	1									1
	臨床心理	2後	1									1
	スポーツ医学	1後		1					1			1
	薬理学概論	2後		1						1		1
	救命救急学概論	3後		1						1		
小計(13科目)	-	-	10	3	0	3	1	0	2	0	0	7
保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	1						1			
	先端リハビリテーション論	4後	1									3
	チーム医療論	1後	1						1			
	チーム医療論演習	4後	1					1	1	3	2	
	国際リハビリテーション論	2前	1									2
小計(5科目)	-	-	5	0	0	1	1	3	2	0	0	5
両専攻共通専門科目	医療リスクマネジメント	3後	1						1			
	職場管理論	4後	1						1		1	
	疼痛リハビリテーション学	3前		1					1			1
	リハビリテーション行動科学	3後		1					1			1
	ウイメンズヘルスケア	3前		1								1
	認知発達障害ケア	3後		1								2
小計(6科目)	-	-	2	4	0	3	0	1	1	0	0	5
基礎理学療法学	理学療法概論	1前	1						1			
	臨床運動学	2後	1							2		
	理学療法研究法	3前	1						1	1		
	客観的臨床能力演習(理学療法)	3後	2					4	2	4	3	
	理学療法卒業研究	4後	2					3	2	4	3	
	小計(5科目)	-	-	7	0	0	4	2	4	3	0	0
理学療法評価学	理学療法評価学	2前	1							1	1	
	運動器障害評価学	2後	1						1		1	
	神経障害評価学	2前	1							1		
	内部障害評価学	2後	1						1	1		
	理学療法計画論	3後	2						1		1	
小計(5科目)	-	-	6	0	0	3	2	2	2	1	0	1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(理学療法専攻)	基礎運動療法学	2前	1			1						
	義肢装具学Ⅰ(総論)	2前	1			1					1	
	義肢装具学Ⅱ(各論)	2後	1								1	
	物理療法学Ⅰ(総論)	3前	1					2				
	物理療法学Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	筋骨格障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	筋骨格障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1			1			1			
	中枢神経障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1				1				1	
	中枢神経障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1				1				1	
	小児期障害理学療法学	3前	1								1	
	スポーツ障害理学療法学	3後	1			1			1			
	内部障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	内部障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1			1						
	内部障害理学療法学演習	3後	1			1						
	老年期障害理学療法学	3前	1			1			1			
	神経障害理学療法学	3後	1			1					1	
	日常生活動作学	2前	1			1			1			
	日常生活動作学演習	2後	2			1		1	1			
	理学療法技術特論	4後	1			3	1					
小計(19科目)	-	20	0	0	5	1	2	2	0	4		
地域理学療法学	地域理学療法学	2前	1			1		1	1			
	地域理学療法学演習	2後	2			1		2	1			
	福祉用具・生活環境論Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	福祉用具・生活環境論Ⅱ(各論)	3後	1					1	1			
小計(4科目)	-	5	0	0	2	0	2	1	0			
臨床実習	早期体験実習(理学療法)	1前	1			4	2	4	3	1		
	地域理学療法実習	2後	2			4	2	4	1	1	2	
	理学療法評価実習	3後	3			4	2	4	3	1		
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	8			4	2	4	3	1		
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	8			4	2	4	3	1		
小計(5科目)	-	22	0	0	4	2	4	3	1	2		
合計(120科目)	-	106	64	0	9	3	5	6	1	55		

卒業要件及び履修方法

- 卒業要件
 本学に4年以上在学し、所定の科目を履修して所定の単位を修得し、合格と認められた者には、卒業証書と所定の学位を授ける。
- 履修方法
 <理学療法専攻>
 1. 共通教育科目は、必修15単位、選択16単位以上を修得する。
 2. 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」は、必修科目14単位を修得する。
 3. 専門基礎科目の「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は、必修10単位、選択2単位以上を修得する。
 4. 専門基礎科目の「保健医療福祉とリハビリテーション」は、必修5単位を修得する。
 5. 専門科目は、必修・選択科目を合わせて64単位以上を修得する。
 なお、以下の科目区分より履修する。
 「両専攻共通専門」から必修2単位、選択2単位以上を修得する。
 「基礎理学療法学」から必修7単位、「理学療法評価学」から必修6単位、「理学療法治療学」から必修20単位、「地域理学療法学」から必修5単位、「臨床実習」から必修22単位を修得する。
 6. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目を合わせて126単位以上を修得する。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目(理学療法専攻)	基礎運動療法学	2前	1			1						
	義肢装具学Ⅰ(総論)	2前	1			1					1	
	義肢装具学Ⅱ(各論)	2後	1								1	
	物理療法学Ⅰ(総論)	3前	1					2				
	物理療法学Ⅱ(各論)	3後	1					2				
	筋骨格障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	筋骨格障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1			1			1			
	中枢神経障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1				1				1	
	中枢神経障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1				1				1	
	小児期障害理学療法学	3前	1								1	
	スポーツ障害理学療法学	3後	1			1			1			
	内部障害理学療法学Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	内部障害理学療法学Ⅱ(各論)	3後	1			1						
	内部障害理学療法学演習	3後	1			1						
	老年期障害理学療法学	3前	1			1				1		
	神経障害理学療法学	3後	1			1					1	
	日常生活動作学	2前	1			1			1			
	日常生活動作学演習	2後	2			1		1	1			
	理学療法技術特論	4後	1			3	1					
小計(19科目)	-	20	0	0	5	1	2	2	0	4		
地域理学療法学	地域理学療法学	2前	1			1		1	1			
	地域理学療法学演習	2後	2			1		2	1			
	福祉用具・生活環境論Ⅰ(総論)	3前	1			1						
	福祉用具・生活環境論Ⅱ(各論)	3後	1					1	1			
小計(4科目)	-	5	0	0	2	0	2	1	0			
臨床実習	早期体験実習(理学療法)	1前	1			4	2	4	3	1		
	地域理学療法実習	2後	2			4	2	4	1	1	2	
	理学療法評価実習	3後	3			4	2	4	3	1		
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	4前	8			4	2	4	3	1		
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	4前	8			4	2	4	3	1		
小計(5科目)	-	22	0	0	4	2	4	3	1	2		
合計(120科目)	-	106	64	0	9	3	5	6	1	55		

卒業要件及び履修方法

- 卒業要件
 本学に4年以上在学し、所定の科目を履修して所定の単位を修得し、合格と認められた者には、卒業証書と所定の学位を授ける。
- 履修方法
 <理学療法専攻>
 1. 共通教育科目は、必修15単位、選択16単位以上を修得する。
 2. 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」は、必修科目14単位を修得する。
 3. 専門基礎科目の「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は、必修10単位、選択2単位以上を修得する。
 4. 専門基礎科目の「保健医療福祉とリハビリテーション」は、必修5単位を修得する。
 5. 専門科目は、必修・選択科目を合わせて64単位以上を修得する。
 なお、以下の科目区分より履修する。
 「両専攻共通専門」から必修2単位、選択2単位以上を修得する。
 「基礎理学療法学」から必修7単位、「理学療法評価学」から必修6単位、「理学療法治療学」から必修20単位、「地域理学療法学」から必修5単位、「臨床実習」から必修22単位を修得する。
 6. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目を合わせて126単位以上を修得する。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	英会話Ⅰ	1前	1								1
	英会話Ⅱ	1後	1								1
	中国語基礎Ⅰ	1前		1							1
	中国語基礎Ⅱ	1後		1							1
	中国語会話	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅰ	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅱ	1後		1							1
	スペイン語会話	1前		1							1
	文学	1後		2							1
	哲学	1前		2							1
	倫理学	1前		2							1
	心理学	1前	2								1
	行動の科学	1後		2							1
	文化人類学	1後		2							1
	音楽の世界	1後		2							1
	社会学	1後		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	歴史学	1後		2							1
	地理学	1後		2							1
	数学の世界	1前		2							1
	自然科学の基礎	1後		2							1
	環境化学の基礎	1後		2							1
	健康スポーツ(理論)	1前	1								1
	健康スポーツ(実技)	1後		1							1
	スポーツ実技Ⅰ	1前		1							1
	スポーツ実技Ⅱ	1後		1							1
	共生と社会	1後		2							1
	人権論	1前		2							1
	ボランティア活動	1前	2								1
	生活と環境	1前		2							1
	奈良学	1前		2							1
	異文化コミュニケーション	1後		2							1
	国際事情	1後	2								1
	情報機器の操作	1前	2								1
	情報倫理とセキュリティ	1前		2							1
	データの世界	1前		2							1
	情報と分析	1後		2							1
	CGの基礎と演習	1後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1前		1							1
	キャリアデザインⅡ	1後		1							1
	キャリアディベロップメントⅠ	2前		1							1
	キャリアディベロップメントⅡ	2後		1							1
	基礎ゼミⅠ	1前	1								1
	基礎ゼミⅡ	1後	1			6	2	5	5		1
小計(46科目)	-	-	15	57	0	6	2	5	5	0	28

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	英会話Ⅰ	1前	1								1
	英会話Ⅱ	1後	1								1
	中国語基礎Ⅰ	1前		1							1
	中国語基礎Ⅱ	1後		1							1
	中国語会話	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅰ	1前		1							1
	スペイン語基礎Ⅱ	1後		1							1
	スペイン語会話	1前		1							1
	文学	1後		2							1
	哲学(未開講)	1前		2							1
	倫理学	1前		2							1
	心理学	1前	2								1
	行動の科学	1後		2							1
	文化人類学	1後		2							1
	音楽の世界	1後		2							1
	社会学	1後		2							1
	日本国憲法	1前		2							1
	歴史学	1後		2							1
	地理学	1後		2							1
	数学の世界	1前		2							1
	自然科学の基礎	1後		2							1
	環境化学の基礎	1後		2							1
	健康スポーツ(理論)	1前	1								1
	健康スポーツ(実技)	1後		1							1
	スポーツ実技Ⅰ	1前		1							1
	スポーツ実技Ⅱ	1後		1							1
	共生と社会	1後		2							1
	人権論	1前		2							1
	ボランティア活動	1前	2								1
	生活と環境	1前		2							1
	奈良学	1前		2							1
	異文化コミュニケーション	1後		2							1
	国際事情	1後	2								1
	情報機器の操作	1前	2								1
	情報倫理とセキュリティ	1前		2							1
	データの世界	1前		2							1
	情報と分析	1後		2							1
	CGの基礎と演習	1後		2							1
	キャリアデザインⅠ	1前		1							1
	キャリアデザインⅡ	1後		1							1
	キャリアディベロップメントⅠ	2前		1							1
	キャリアディベロップメントⅡ	2後		1							1
	基礎ゼミⅠ	1前	1								1
	基礎ゼミⅡ	1後	1			6	2	5	5		1
小計(46科目)	-	-	15	57	0	6	2	5	5	0	28

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ(総論・組織学)	1前	1								2
	人体構造学Ⅱ(内臓・生殖器)	1後	1								2
	人体構造学Ⅲ(神経・運動器)	1後	1			1		2			
	人体構造実習	2前	2			1		2			
	人体機能学Ⅰ(植物性機能)	1前	1			1					
	人体機能学Ⅱ(動物性機能)	1後	1				1	2			
	人体生理機能実習	2前	2				1	2			
	人間発達学	1前	1								2
	運動学入門	1前	1					1			
	運動学Ⅰ(総論)	1後	1			1		2			
	運動学Ⅱ(各論)	2前	1			1	1				
	運動学演習	2前	1					1	2		
小計(12科目)	-	14	0	0	4	1	4	2	0	6	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	1後	1			1					
	リハビリテーション医学	1前	1							1	
	痛み学概論	1後	1			1			1		
	整形外科学Ⅰ(総論)	2前	1							1	
	整形外科学Ⅱ(各論)	2後	1							1	
	内部障害学Ⅰ(総論)	2前	1			2					
	内部障害学Ⅱ(各論)	2後	1			2					
	神経内科学	2前	1			1					
	心身医学概論	2後	1							1	
	臨床心理	2後	1							1	
	スポーツ医学	1後	1	1		1				1	
	薬理学概論	2後	1							1	
	救命救急学概論	3後	1				1				
小計(13科目)	-	10	3	0	3	1	0	2	0	7	
保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	先端リハビリテーション論	4後	1								3
	チーム医療論	1後	1			1					
	チーム医療論演習	4後	1			1	1	3	2		
	国際リハビリテーション論	2前	1								2
小計(5科目)	-	5	0	0	1	1	3	2	0	5	
両専攻共通専門	医療リスクマネジメント	3後	1			1					
	職場管理論	4後	1			1		1			
	疼痛リハビリテーション学	3前		1		1				1	
	リハビリテーション行動科学	3後		1		1				1	
	ウイメンズヘルスケア	3前		1						1	
	認知発達障害ケア	3後		1						1	2
小計(6科目)	-	2	4	0	3	0	1	1	0	5	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			1					
	基礎作業学	2前	1			1					
	作業技術学Ⅰ	2後	1						1		
	作業技術学Ⅱ	2後	1							2	
	作業療法研究法	3前	1			1					
	作業療法卒業研究	4後	2			4		1			
	客観的臨床能力演習(作業療法)	3後	1			3		1			
	小計(7科目)	-	8	0	0	4	0	1	2	0	
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ(身体)	2前	1						1		
	作業療法評価学Ⅱ(精神)	2前	1					1			
	作業療法評価学演習Ⅰ(身体)	2後	1			1				1	
	作業療法評価学演習Ⅱ(精神)	2後	1					1			
	作業療法総合演習	3後	1						3		
小計(5科目)	-	5	0	0	1	0	1	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学Ⅰ(総論・組織学)	1前	1								2
	人体構造学Ⅱ(内臓・生殖器)	1後	1								2
	人体構造学Ⅲ(神経・運動器)	1後	1			1		2			
	人体構造実習	2前	2			1		2			
	人体機能学Ⅰ(植物性機能)	1前	1			1					
	人体機能学Ⅱ(動物性機能)	1後	1				1	2			
	人体生理機能実習	2前	2				1	2			
	人間発達学	1前	1								2
	運動学入門	1前	1					1			
	運動学Ⅰ(総論)	1後	1			1		2			
	運動学Ⅱ(各論)	2前	1			1	1		1	2	
	運動学演習	2前	1					1	2		
小計(12科目)	-	14	0	0	4	1	4	2	0	6	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	1後	1			1					
	リハビリテーション医学	1前	1							1	
	痛み学概論	1後	1			1			1		
	整形外科学Ⅰ(総論)	2前	1							1	
	整形外科学Ⅱ(各論)	2後	1							1	
	内部障害学Ⅰ(総論)	2前	1			2					
	内部障害学Ⅱ(各論)	2後	1			2					
	神経内科学	2前	1			1					
	心身医学概論	2後	1							1	
	臨床心理	2後	1							1	
	スポーツ医学	1後	1	1		1				1	
	薬理学概論	2後	1							1	
	救命救急学概論	3後	1				1				
小計(13科目)	-	10	3	0	3	1	0	2	0	7	
保健医療福祉とリハビリテーション	リハビリテーション概論	1前	1			1					
	先端リハビリテーション論	4後	1								3
	チーム医療論	1後	1			1					
	チーム医療論演習	4後	1			1	1	3	2		
	国際リハビリテーション論	2前	1								2
小計(5科目)	-	5	0	0	1	1	3	2	0	5	
両専攻共通専門	医療リスクマネジメント	3後	1			1					
	職場管理論	4後	1			1		1			
	疼痛リハビリテーション学	3前		1		1				1	
	リハビリテーション行動科学	3後		1		1				1	
	ウイメンズヘルスケア	3前		1						1	
	認知発達障害ケア	3後		1						1	2
小計(6科目)	-	2	4	0	3	0	1	1	0	5	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1			1					
	基礎作業学	2前	1			1					
	作業技術学Ⅰ	2後	1						1		
	作業技術学Ⅱ	2後	1							2	
	作業療法研究法	3前	1			1					
	作業療法卒業研究	4後	2			4		1			
	客観的臨床能力演習(作業療法)	3後	1			3		1			
	小計(7科目)	-	8	0	0	4	0	1	2	0	
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ(身体)	2前	1							1	
	作業療法評価学Ⅱ(精神)	2前	1						1		
	作業療法評価学演習Ⅰ(身体)	2後	1			1				1	
	作業療法評価学演習Ⅱ(精神)	2後	1					1			
	作業療法総合演習	3後	1							3	
小計(5科目)	-	5	0	0	1	0	1	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目（作業療法学専攻）	身体障害作業療法Ⅰ（総論・脳神経系）	2前	1			1							
	身体障害作業療法Ⅱ（運動器・難病）	2前	1			1			1				
	身体障害作業療法Ⅲ（応用）	2後	1			2			1				
	精神障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1		1					
	精神障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1					1					
	発達障害作業療法Ⅰ（総論）	2後	1									2	
	発達障害作業療法Ⅱ（各論）	3前	1									2	
	老年期障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1			1				
	老年期障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1			1			1				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1			1				
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1						1				
	日常生活支援Ⅰ（総論）	3前	1			1				2			
	日常生活支援Ⅱ（各論）	3後	1							2			
	作業療法特論Ⅰ（身体障害）	3前	1			1							
	作業療法特論Ⅱ（精神障害）	3後	1					1					
	作業療法特論Ⅲ（発達障害）	3前	1									2	
	作業療法特論Ⅳ（老年期障害）	3後	1			1							
	作業療法特論Ⅴ（高次脳機能障害）	3後	1						1			1	
	義肢装具学	3前	2			1							
小計(19科目)	-	20	0	0	4	0	1	3	0	4			
地域作業療法学	地域作業療法Ⅰ（総論）	2前	2			1			1				
	地域作業療法Ⅱ（各論）	2後	1						2				
	生活環境整備論	3後	1			1							
小計(3科目)	-	4	0	0	2	0	0	2	0				
臨床実習	早期体験実習（作業療法）	1前	1			3		1	2	1			
	地域作業療法実習	2後	2			3		1	3	1			
	検査・測定実習	3前	1			3		1	2	1	1		
	作業療法評価実習	3後	3			3		1	3	1			
	総合臨床実習Ⅰ（作業療法）	4前	8			3		1	3	1			
	総合臨床実習Ⅱ（作業療法）	4前	8			3		1	3	1			
小計(6科目)	-	23	0	0	3	0	1	3	1	1			
合計(122科目)	-	106	64	0	9	3	5	6	1	52			
卒業要件及び履修方法													
<p>○卒業要件 本学に4年以上在学し、所定の科目を履修して所定の単位を修得し、合格と認められた者には、卒業証書と所定の学位を授ける。</p> <p>○履修方法 <作業療法学専攻> 1. 共通教育科目は、必修15単位、選択16単位以上を修得する。 2. 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」は、必修科目14単位を修得する。 3. 専門基礎科目の「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は、必修10単位、選択2単位以上を修得する。 4. 専門基礎科目の「保健医療福祉とリハビリテーション」は、必修5単位を修得する。 5. 専門科目は、必修・選択科目を合わせて64単位以上を修得する。 なお、以下の科目区分より履修する。 「両専攻共通専門」から必修2単位、選択2単位以上を修得する。 「基礎作業療法学」から必修8単位、「作業療法評価学」から必修5単位、「作業療法治療学」から必修20単位、「地域作業療法学」から必修4単位、「臨床実習」から必修23単位を修得する。 6. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目を合わせて126単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））</p>													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目（作業療法学専攻）	身体障害作業療法Ⅰ（総論・脳神経系）	2前	1			1							
	身体障害作業療法Ⅱ（運動器・難病）	2前	1			1				1			
	身体障害作業療法Ⅲ（応用）	2後	1			2				1			
	精神障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1			1				
	精神障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1						1				
	発達障害作業療法Ⅰ（総論）	2後	1									2	
	発達障害作業療法Ⅱ（各論）	3前	1									2	
	老年期障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1			1				
	老年期障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1			1			1				
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ（総論）	3前	1			1			1				
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ（各論）	3後	1						1				
	日常生活支援Ⅰ（総論）	3前	1			1				2			
	日常生活支援Ⅱ（各論）	3後	1							2			
	作業療法特論Ⅰ（身体障害）	3前	1			1							
	作業療法特論Ⅱ（精神障害）	3後	1							1			
	作業療法特論Ⅲ（発達障害）	3前	1									2	
	作業療法特論Ⅳ（老年期障害）	3後	1			1							
	作業療法特論Ⅴ（高次脳機能障害）	3後	1						1			1	
	義肢装具学	3前	2			1							
小計(19科目)	-	20	0	0	4	0	1	3	0	4			
地域作業療法学	地域作業療法Ⅰ（総論）	2前	2			1				1			
	地域作業療法Ⅱ（各論）	2後	1						2				
	生活環境整備論	3後	1			1							
小計(3科目)	-	4	0	0	2	0	0	2	0				
臨床実習	早期体験実習（作業療法）	1前	1			3		1	2	1			
	地域作業療法実習	2後	2			3		1	3	1			
	検査・測定実習	3前	1			3		1	2	1	1		
	作業療法評価実習	3後	3			3		1	3	1			
	総合臨床実習Ⅰ（作業療法）	4前	8			3		1	3	1			
	総合臨床実習Ⅱ（作業療法）	4前	8			3		1	3	1			
小計(6科目)	-	23	0	0	3	0	1	3	1	3	1	1	
合計(122科目)	-	106	64	0	9	3	5	6	1	52			
卒業要件及び履修方法													
<p>○卒業要件 本学に4年以上在学し、所定の科目を履修して所定の単位を修得し、合格と認められた者には、卒業証書と所定の学位を授ける。</p> <p>○履修方法 <作業療法学専攻> 1. 共通教育科目は、必修15単位、選択16単位以上を修得する。 2. 専門基礎科目の「人体の構造と機能及び心身の発達」は、必修科目14単位を修得する。 3. 専門基礎科目の「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」は、必修10単位、選択2単位以上を修得する。 4. 専門基礎科目の「保健医療福祉とリハビリテーション」は、必修5単位を修得する。 5. 専門科目は、必修・選択科目を合わせて64単位以上を修得する。 なお、以下の科目区分より履修する。 「両専攻共通専門」から必修2単位、選択2単位以上を修得する。 「基礎作業療法学」から必修8単位、「作業療法評価学」から必修5単位、「作業療法治療学」から必修20単位、「地域作業療法学」から必修4単位、「臨床実習」から必修23単位を修得する。 6. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目を合わせて126単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））</p>													

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和元年】

特になし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〉

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
78 科目	42 科目	— 科目	120 科目	78 科目 [0]	42 科目 [0]	— 科目 [—]	120 科目 [0]	変更なし

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 〉

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
80 科目	42 科目	— 科目	122 科目	80 科目 []	42 科目 []	— 科目 []	122 科目 []	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〉

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{120} = \boxed{} \%$$

〈 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 〉

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{122} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地は奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校と共用 奈良学園小学校 収容定員 720人 基準面積 7,200㎡ 奈良学園登美ヶ丘中学校 収容定員 600人 基準面積 7,200㎡ 奈良学園登美ヶ丘高等学校 収容定員 675人 基準面積 8,400㎡ ※基準面積は全て運動場用地			
	校 舎 敷 地	67,270.00 ㎡	4,408.00 ㎡	27,855.00 ㎡	99,533.00 ㎡				
	運動場用地	49,018.00 ㎡	24,467.00 ㎡	0.00 ㎡	73,485.00 ㎡				
	小 計	116,288.00 ㎡	28,875.00 ㎡	27,855.00 ㎡	173,018.00 ㎡				
	そ の 他	116,120.01 ㎡	6,734.00 ㎡	3,300.00 ㎡	126,154.01 ㎡				
	合 計	232,408.01 ㎡	35,609.00 ㎡	31,155.00 ㎡	299,172.01 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校等の専用は奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校			
		31,027.69 ㎡ (29,219.81 ㎡)	14,049.19 ㎡ (15,857.07 ㎡)	20,475.87 ㎡ (20,475.87 ㎡)	65,552.75 ㎡ (65,552.75 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	55 室	47 室	44 室	8 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		他に助手研究室2室			
	保健医療学部リハビリテーション学科			24 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	教育効果を高めるため更に図書を充実させる計画である(元)	
	保健医療学部 リハビリテー ション学科	2109 2070 [220] (1369 [130])	31 [25] (31 [25])	1 [0] (1 [0])	201 200 (161)	1912 (692)	17 (0)		
	計	2109 2070 [220] (1369 [130])	31 [25] (31 [25])	1 [0] (1 [0])	201 200 (161)	1912 (692)	17 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数						
	4,560.31㎡	486席	378,000冊						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体 登美ヶ丘キャンパスは体育館、その他のスポーツ施設は小・中・高・短大部と共用		
	7,221.27 ㎡	野球場 2面、サッカー場 4面、テニスコート 10面							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースを含む
		教員 1人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	10,000千円	12,000千円	0千円	
	共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	4,000千円	163,500千円	0千円		
	学生 1人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	奈良学園大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度	
人間教育学部		150	-	540	-	0.99		平成26	奈良県生駒郡三郷町立野北三丁目12-1	平成30年度より入学定員増120→150 平成30年度専攻設置(30)
人間教育学科		150	-	540	-	0.99	平成30	平成26	同上	
人間教育学専攻	4	120	-	480	学士 (教育学)	0.93	-	平成26	同上	
中等(数学・音楽)専攻	4	30	-	60	学士 (教育学)	1.51	-	平成30	同上	
保健医療学部	4	160	-	400	-	0.97	-	平成26	奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15番1号	
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.06	-	平成26	同上	
リハビリテーション学科	4	80	-	80	-	0.63	-	令和元	同上	
理学療法学専攻	4	40	-	40	学士 (理学療法学)	1.07	-	令和元	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	40	学士 (作業療法学)	0.20	-	令和元	同上	
大学院		8	-	16	-	0.62	-	平成30	奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15番1号	
看護学研究科(M)	2	8	-	16	修士 (看護学)	0.62	-	平成30	-	
大学全体	-	318	-	956	-	0.99	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
9	3	5	6	23	9	2	5	6	22
(9)	(2)	(5)	(5)	(21)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
9	3	5	6	23	9	3	5	6	23
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{22} = \boxed{4.54} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		(該当なし)					
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		(該当なし)					
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{0} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		(該当なし)					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
認 可 時 (平成30年)	理学療法学専攻、作業療法学専攻のアドミッション・ポリシーは入学時点で求める能力にも関わらず、「理学療法士(作業療法士)として自分の意見をしっかり持ち、それを表現し、相手への確に伝えることができる」など、既に有資格者に求めているかのような記載があるため、これらの表現について入学前に求める能力として適切な記載に改めること。	アドミッション・ポリシーについては次のように改めた。また、学生募集要項にも以下のように記載している。 ①入学後の修学に必要な高校卒業相当の基礎学力を有している。【知識・理解】 ②他者とのコミュニケーション能力をもち、仲間と協働した行動ができる。【態度】 ③保健・医療に対して強く関心を持ち、理学療法士や作業療法士への志向を強く持っている。【関心・意欲】 ④自分の意見をしっかり持ち、それを表現し、相手への確に伝えることができる。【技能・表現】 ⑤問題や課題を論理的な思考に基づき理解できる。【思考・判断】 添付資料…平成31年4月入学学生募集要項(リハビリテーション学科)(元)	遵守事項	履行済

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
資料として、3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の関連性を表す図表を準備した。	3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の関連性を表す図表については、記載が複雑でわかりにくいという指摘【助言事項】に対して、複雑な記載を削減し、3つのポリシーの関連性がわかりやすい図を用意した。 添付資料…3ポリシーの関連図（理学療法学専攻、作業療法学専攻）
設置認可時の助言事項として、「学生確保の観点において、アンケート調査の結果から示された作業療法学専攻の入学定員に対する入学希望者倍率に鑑みると、定員充足について懸念が残るため、継続的に魅力的な教育環境の充実及び発信に努めることが望ましい。」とのこと指摘をいただいた。	作業療法士の仕事の魅力と今後の社会的需要の高さ、そして本学での学びの特徴や教員の紹介、そして教育環境の魅力などをわかりやすく紹介するパンフレットを作成し、教員と広報担当職員が直接高校へ訪問して配布と詳細な説明を行う。また、この資料をホームページやSNSでも発信し、情報のアクセスを高めることで、入学希望者の増加を図る。（実施中）

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>専門委員会にFD・SD委員会を設置している。FD・SD委員は各学部から選出され教員の支出工場のために協議し各施策に取り組んでいる。 (参考) 奈良学園大学FD・SD委員会規程</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員会は、定例に開催することを予定している。第1回委員会は5月10日に開催を予定している。また、全教員を対象とするFD・SD研修会も、例年通り開催する予定である。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD・SD委員会は次の事項を審議する。</p> <p>(1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項 (2) 教育活動における教職員の交流と研修に関する事項 (3) 教員の教授活動相互研鑽に関する事項 (4) 学生による授業評価の実施に関する事項 (5) 学生の勉学能力の育成に関する事項 (6) その他委員会が必要と認めた事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容（実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケート ・ 教員相互の授業参観 ・ FD・SD研修会 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケートを、前期末1回、後期末1回実施予定 ・ 教員相互の授業参観を前期1回、後期1回実施予定 ・ FD・SD研修会では、学科で出てきた問題点を持ち寄り、課題解決に向けグループワークを実施予定。 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>第1回委員会は5月10日に開催を予定している。 その他の取り組みは、開設年度のため実績なし。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>授業アンケート、授業参観の結果は真摯にとらえ、学長、副学長及び学部長、学科長が中心となって改善に取り組む予定である。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>授業アンケートを、前期末1回、後期末1回実施予定。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>授業評価アンケートは、結果を集計・分析し、評議会及び教授会での報告と合わせて、ホームページで教員や学生に公開する予定。</p>

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学校法人奈良学園は近年 高等教育部門の再編を進めてきた。リハビリテーション学科の設置もその一環として高等教育整備拡充委員会での議論を経て理事会において決定した。設置認可後は全教職員が設置の趣旨およびリハビリテーション学科の教育目標を共有し、一丸となって学生募集を行ったが入学者数は定員には及ばなかった。懸念された作業療法学専攻においては定員充足率20%という低水準に甘んじたが、募集活動の見直しを行い、作業療法士の業務内容等も広報の材料に取り込み、職業としての作業療法士の魅力もアピールしていくことで、定員充足率100%を達成したい。また、教育目標の達成については定期的・継続的に点検評価を行い更なる充実を目指す。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和元年5月公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、図書館と事務室に配置・閲覧
・大学ホームページにて公表（令和元年5月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

平成29（2017）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学評価（認証評価）を受け、大学評価基準を満たしていると認定された。今後は、令和6（2024）年度までに認証評価機関による認証評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （令和元年 6月 1日予定）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。